

令和6年度 第6回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和7年3月19日（水）15：00～17：00

場所：本庁舎A棟2階 203・204会議室

出席者：下平会長、寫田副会長、渡邊委員、胡桃澤委員、山崎委員、森下委員、今村委員（紀）、篠田委員、松村委員、熊谷委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、清水総務部長、澤柳企画課長、伊藤人事課長、鎌倉デジタル推進課長

欠席者：畠中委員、北原委員、今村委員（匡）、和田委員、市瀬委員

1 開会

2 任命書交付

（渡邊委員）

飯田青年会議所の理事長として参加させていただく。よろしくお願い申し上げます。

3 あいさつ

（下平会長）

本日はお忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。本日は起きたら雪が積もっていたが、気象庁の発表によると地球温暖化の現象であり、今後このようなことが頻繁に発生してくるように感じている。新しく委員に任命した渡邊委員に関しては、本年度最後の委員会となるが、是非一緒になってご協議いただくことを願います。日進月歩の変化の激しい現代社会の中で、古きを研究し、その中で新しい知識や道理を見つけ出していくという温故知新の考えを持ち、常に学び直し、リスクリングが必要な社会である。このことにより、行財政改革も進んでいくのではないかと考えている。私自身も話の引き出しを増やすべく、雑学をリスクリングしているところである。

さて、本委員会は、今年度最後となる第6回目の委員会となる。ご承知のとおり、今年度は、次期飯田市行財政改革大綱の策定について、本推進委員会が諮問を受けて協議を重ね、答申を行い、その答申に基づき、次期飯田市行財政改革大綱の案がまとめられ、各種手続きを経た上で、市として、飯田市行財政改革大綱の策定に至ったものと認識している。また、大綱に基づく具体的な取組については、年度ごとに大綱に基づく実行計画を定めて取り組むこととしており、すでに策定が完了し、4月から取組が始まるものと理解している。

本日は、今年度最後の委員会であるため、これまでの行財政改革の取組の成果、次期飯田市行財政改革大綱とその大綱に基づく実行計画の内容などの説明を受け、新年度の取組を確認していただきたい。本日も、しっかりとご協議いただくことをお願い申し上げて、会長の挨拶とする。

（高田副市長）

本日は年度末の大変お忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。私は、飯田風越高等学校近くに住んでいるが、今朝起きてカーテンを開けたら7～8センチほどの積雪があり、お彼岸の最中にこれだけの積雪があるのは珍しいと思いつつ、真っ白な雪景色を愉しんでいたところである。

本推進委員会の皆様におかれましては、今まで5回の会議にて真剣にご協議いただき、答申までまとめていただいた。いただいた答申をしっかりと踏まえて、次期飯田市行財政改革大綱、大綱に基づ

く実行計画の策定ができたことに、改めて感謝を申し上げます。また、この後説明があるが、現在開会中の令和7年度飯田市議会第1回定例会にて、令和7年度当初予算（案）を提出し、審議をいただいているところである。本日の委員会では、飯田市行財政改革大綱と令和7年度の予算案について改めて説明させていただき、ご意見を賜りたくお願い申し上げます。4月から新年度がスタートするが、この飯田市行財政改革大綱に基づいて、しっかりと行財政基盤をつくっていくことが私たちの役割だと感じている。ぜひ、本日の会議では、配慮してほしい点についてご指摘をいただくことをお願い申し上げ、挨拶とする。

4 協議事項

(1) これまでの行財政改革の取組について

飯田市行財政改革大綱（2021年度～2024年度）に基づく実行計画（2024年度取組及び4年間の取組結果） 資料1 【佐々木財政課長、鎌倉デジタル推進課長、伊藤人事課長説明】

（今村委員（紀））

2点質問である。1点目に、デジタル化を進めたことにより、どのような成果があったのか具体的に教えていただきたい。2点目に、以前から度々質問しているが、会計年度任用職員については記載されていないが、現状はどうなっているのか。

（鎌倉デジタル推進課長）

1点目の質問について回答させていただく。マイナンバーカードの普及に伴い、一つの成果とすると、以前は、夜間の証明書発行の対応を行っていたが、今ではコンビニで取得可能になったことで、窓口業務時間の短縮により、職員の業務量の改善につながっている。また、いろいろとオンライン化を進めているが、今まで紙で提出いただいていたものをそのままデータでいただくことにより、職員が再度手入力していた手間を省くことにつながっているが、どれほど業務を短縮できたかは検証ができていないのが現状である。また、デジタルで情報が入ってくるようになった反面、市役所内部の仕事においては、紙を使用して押印し、決裁を回すという手法であり、デジタルをアナログに変換して業務を行っている状況である。したがって、令和7年度からは、デジタルはデジタルのまま処理ができるようになれば、さらに効果が出てくるのではないかと考えている。

（伊藤人事課長）

2点目の質問について回答させていただく。市役所の業務を行う上では、専門的な資格や知識が必要となる業務もあり、会計年度任用職員の皆様には業務を支えていただいております、ここ数年で会計年度任用職員数も増加傾向にある。今後、時間外勤務の状況を含め、正規職員と会計年度任用職員がそれぞれどのような業務を行うのか整理を行い、会計年度任用職員の働き方も含めて目標数値に反映していきたいと考えている。

（今村委員（紀））

会計年度任用職員は、3年経つと雇用契約を解除されると聞いたことがあるが実際はどうか。

（伊藤人事課長）

会計年度任用職員の働き方に関しては、1年を区切りとして働いていただいている方、短期で働いていただいている方、また正規職員で配置できない専門的な資格・知識を要する課で働いていただいている方等、それぞれ多様な働き方で支えていただいている状況である。800人という目標は、まずは正規職員の確保を目標に掲げており、正規職員で賄えない部分に関しては、会計年度任用職員の方をお願いするという方針で取り組んでいる。

（今村委員（紀））

会計年度任用職員の給与の低さ、研修制度の不十分さが目立ち、もっと働き方が保障されることが必要だと感じる。全体の4割が会計年度任用職員であり、市役所の業務にかなりの影響を及ぼすので、

研修制度を整え、待遇をよくしていただきたい。

(下平会長)

市役所は、2年ごと1歳ずつ定年を引き上げるという話もあったが、65歳の定年を目指しているのか。

(伊藤人事課長)

段階的に65歳まで定年を延長していくこととしており、昨年度から定年延長を始めたところである。60歳を超えた方でも、本人の希望により65歳までは引き続き任用するという形で勤務できるようにしていく予定である。

(下平会長)

昨日、人事異動の発表があったと聞いたが、再任用も増えているように感じると同時に、新規職員の募集をしても、なかなか人材が集まらないといった話も聞くが、現状はどうなっているのか。

(伊藤人事課長)

募集をしても応募者が集まらないことに関しては、飯田市に限らず、他の自治体でも課題になっているところである。また、建築や土木等の技師に関しては、事務職以上に人材確保が難しく、課題になっているのが現状である。

(下平会長)

このような現状を踏まえ、会計年度任用職員という働き方が増えてきているように感じる。

(篠田委員)

先程の今村委員(紀)に続くようなことであるが、8ページに職員一人あたりの月間平均時間外勤務時間について記載があるが、現状、平均13.54時間ということは、この倍近くの残業時間の職員もいるのではないのか。時間外勤務を12時間以内にするというのは、公務員の働き方では可能であるような気がするが、強制的に残業ができない仕組みにする等、何か策はあるのか。

(伊藤人事課長)

時間外勤務については、人事課から強制的に何時間以内とお願いするということはしておらず、業務の中でどうしても必要を迫られて行っているのが現状である。篠田委員の仰せのとおり、記載しているのは平均時間外勤務時間であるため、これ以上の残業をしている職員もいるのが実態である。そのため、人員配置や業務の見直しを各課で進めていただく中で、勤務時間の削減に取り組んでいる。時間外勤務が長くなれば健康面にも影響が出るため、保健師との面談を行い、体調を崩してさらに時間外勤務が増えるといった非効率にならないよう、対応をしている状況である。

(篠田委員)

要望であるが、民間企業では、ブラック企業が少なくなっているように感じる。その方法とは、強制的にパソコンをシャットダウンし、時間外勤務をできないようにしている企業が増えているように感じる。どうしたら12時間以内になるのか、具体的な対策を決めないといつになっても目標を達成することは難しいように感じる。

(寫田委員)

2点ある。1点目に、28ページの飯田市行政事務DX推進方針に基づく取組の取組3-⑤デジタル活用による庁内情報共有の促進について、先ほど鎌倉デジタル推進課長からデジタルをアナログに変換して処理をしているといった話があったが、どのような処理をしているのか詳しく教えていただきたい。2点目に、取組4-①セキュリティ対策の徹底とあるが、デジタルを進めていくと同時に、安全も確保しないといけないが、例えば、情報流出があった際に危機管理の方針として、誰がどのようにタイムラグなく対応するのか、決まっていれば教えていただきたい。

(鎌倉デジタル推進課長)

1点目について、先ほど説明が不足していたが、現在ペーパーレス化を進めており、外部から提出

される申請書が紙の場合、庁内でデータを打ち込んで書類を作成し、印刷したものを決裁へ回しているのが現状である。アナログで入ってきた紙をデジタル化し、それを印刷して決裁に回すパターンと、デジタルで入ってきたものを印刷し、決裁を回すパターンがあり、この業務が非効率であるため、デジタルで入ってきたものはデジタルのまま決裁を回せる仕組みに変えていかなければならないということである。2点目について、飯田市情報セキュリティポリシーを定めており、セキュリティインシデントが起こった際にはデジタル推進課へ情報が入り、飯田市の最高情報セキュリティ責任者である副市長へ迅速に報告するという組織をつくっている。

(熊谷委員)

7ページの行政サービスの刷新の中に、オンラインによる自治行政手続き47種類に対応し、市民サービスの向上を目指すところがあるが、各年度の実績をみると、令和4年度からは1、2種類しか増えていないが、何か理由はあるのか。

(鎌倉デジタル推進課長)

国のデジタル社会の実現に向けた重点計画の中には、図書館の本の予約等いろいろあるが、現在できていないことといえば建築確認申請や粗大ごみの申し込み等であり、申請と同時に手数料が発生する手続である。現状、手数料を決済する仕組みができていないため、来年度以降仕組みを整えることを考えている。また、災害時の罹災証明書の発行申請まではできているが、災害弔慰金や災害見舞金の支給申請等の被災者支援の手続に関しては、まだオンライン化の検討に至っておらず、実装できていない状況である。

(熊谷委員)

承知した。もう1点質問であるが、先ほど時間外勤務時間の話があったが、民間と比較して考えると、月間15時間以内であるので、充分少ないように感じる。実行目標に掲げることは難しいとは思いますが、過労死するラインを超えるような時間外勤務をする職員が発生しないようにすることが大切であると感じるため、しっかりとケアをしていただきたい。月間12時間以内という数字がどのような基準で定められたものであるかにもよるが、見直してもいいのではないかと個人的には感じる。

(下平会長)

株式会社DeNAの会長によると、オンライン化を進めることで事務系の業務は大体半分ほどに削減できる可能性があるとのことであるが、このようになるのか。

(鎌倉デジタル推進課長)

AIに関しては、チャットGPTを試行的に使用している状況であり、日々の業務の中でも文章の校正や会議記録作成については利用している。しかし、AIを使える職員と使えない職員がいるため、どうしたら効率良くAIを使うことを職員へ周知していくかが課題となっている。現在試行の段階ではあるが、AIを使用した職員のうち、4割が効率が上がったと感じている結果が出ており、AIの使い方も含めて周知をしていきたい。また、いろいろなものの中にAIが組み込まれていく時代になっているため、AIを利用して業務の効率化を進めていくことはできると思うが、それによって職員数を半減させることは難しいと感じる。しかし、2040年問題で世の中の生産年齢人口が減少していく中で、飯田市役所の職員数だけが現状のままであるのかは疑問であるため、AIをうまく利用しながら効率の良い業務を行っていく必要があると感じている。

(下平会長)

是非ご検討をお願いしたい。

(渡邊委員)

要望であるが、実績の成果の報告として、「できた」や「寄与した」という言葉である、どの程度の達成率なのか伝わりにくいと感じる。また、様々な事業を行っており、それぞれに予算があると思うが、予算と実際の支出がわかるように数値で表し、達成率を記載していただくとわかりやすい成果

報告になると感じるが、このようなまとめ方は可能であるのか。

(佐々木財政課長)

以前から目標や成果をわかりやすく数値化するというご意見をいただいております、今回も可能な範囲で数値化させていただいたつもりではあるが、ご指摘のとおり表現のわかりにくさや予算に関する記載はないため、次の実行計画のまとめの際には検討していきたい。

(2) 今後の行財政改革の取組について 【佐々木財政課長説明】

ア 飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度） 資料2-1

イ 飯田市行財政改革大綱（2025年度～2028年度）に基づく実行計画〔2025年度〕 資料2-2

ウ 次期・飯田市行財政改革大綱の案に関する意見等 資料2-3

(寫田委員)

資料2-2の3ページの取組目標にメンタルヘルス・ケアとあるが、メンタルヘルス・ケアについては、資料2-3の3ページに、1か月以上休養している人数の推移が見える化し、悪化している場合は原因を探り制度改正やメンタルヘルスに繋がれると良いと感じると意見があったと記載があるが、実際に健康診断の際にストレスチェックで引っかかった人に対して産業医がフォローするだけで見える化になっているのだろうか。他に何か対策があれば教えていただきたい。

(伊藤人事課長)

メンタルヘルスの対策として、ストレスチェック診断の結果を職場ごとに分析したものを基に、各課ごと課題の把握をし、改善につなげるような研修を行っている。また、職場の所属長については、職場内の環境改善に係る研修をしている。さらに新人職員に関しては、入庁して半年を目途に保健師との面談を行い、精神面のサポートをしている。

(寫田委員)

質問した理由として、5分間でストレスチェックのできる日本版GHQ精神健康調査票というものが、定期的にこのようなものを活用することをご検討いただけるといいのではないかと。

(胡桃澤委員)

全体的な話で質問である。目指す姿は、市民が求めていることを掲げるべきであると感じるが、内容が漠然としており、何が大きな目的であるかが読み取れない。

(佐々木財政課長)

考え方とすると、飯田市行財政改革大綱に関しては、順を追って項目を並べているつもりであり、人口減少、少子高齢化、公共施設の老朽化、職員体制の確保等が課題としてあるという状況である。そういった中で、今まで行ってきた業務のやり方がこのままでいいのかを検討し、抜本的な見直しが必要となっているのではないかとということを踏まえ、目指す姿の前段に3つのアプローチを設定している。このアプローチからそれぞれ改革の柱が考え出されており、柱はそれぞれ将来を見据えた整理をさせていただいた。表現が漠然としており申し訳ないが、現在の課題から改革の柱や目指す姿を設定したということをご承知おきいただきたい。

(胡桃澤委員)

市民が行政に本当に求めていることを考えて柱を検討していただき、市民が求めている視点から説明していただけるとわかりやすいと感じる。

(今村委員(紀))

簡単に答えができるようなことではないが、人口減少を食い止めるような何か新しい策はないか。

(澤柳企画課長)

人口減少、少子高齢化対策については、飯田市行財政改革大綱とは別に、飯田市の総合計画であるいいだ未来デザイン 2028 の中で、令和7年度から令和10年度までの4か年の取組について12月議

会にて承認いただいたところである。こちらに基づいて令和7年度の事業について、予算も含めて飯田市議会に上程しているところである。このいいだ未来デザイン2028の後期の取組の中に、持続可能な地域を創造するために必要なものは何かについて、地域の皆様からご意見をいただきながら7つの基本目標を策定したところである。これは少子高齢化の右肩下がりのカーブをいかに緩やかにするか、または少子高齢化の時代に適応していくかという視点から策定したものである。この7つの基本目標に後期の4年間でしっかりと取り組み、この取組の中で少子高齢化を踏まえて持続可能な地域にしていきたい。そして、地域の皆様と一緒に描いた8つの未来ビジョンのまちの姿の実現に向けてしっかりと取り組んで参りたい。

(今村委員(紀))

いいだ未来デザイン2028の内容を具体的に見ることはできるのか。

(澤柳企画課長)

後期計画が令和7年4月1日からスタートするが、市民の皆様向けのリーフレットを作成したので後ほどお配りする。

(熊谷委員)

31ページに、取組目標の民間活力を活用するに対して、実行計画目標に公の施設の指定管理協定に定めた管理目標の達成率を100%にすると掲げており、これに対しての令和5年度の実績が26%と低い数字になっているが、この数字をいきなり100%に持っていくという目標にした理由を教えてください。また、4年間で実行可能かどうかを教えてください。

(佐々木財政課長)

令和5年度の実績が低い状況となっているが、指定管理者との間で結ぶ協定の中でそれぞれの目標を設定し、管理・運営をしていただいている状況である。次期4年間の中では、その目標を必ず達成していただくこととしており、数字だけで比較すると難しそうに見えるが、無理のある目標ではないので、基本的には全て達成していただくということで100%としている。

(3) 令和7年度当初予算について

令和7年度当初予算の概要(案) 資料3 【佐々木財政課長説明】

※質問・意見なし

5 今後のスケジュール 【岩崎行革・施設マネジメント係長説明】

令和7年度の行財政改革推進委員会の開催予定について

・第1回(令和7年6月頃を予定)

6 飯田市行財政改革推進委員会の任期満了にあたって 【岩崎行革・施設マネジメント係長説明】

7 閉会

(高田副市長)

本日は、長時間に渡り、多くの貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。本日、予算やいいだ未来デザイン2028についてリーフレットを用いて説明させていただいたが、予算を執行し、総合計画の実現を目指していくのが我々の仕事であり、それを支えるのが飯田市行財政改革大綱であるため、本日いただいたご意見をしっかりと踏まえて取り組んで参りたいと感じている。今年は、年6回と多くの協議を重ねていただいたことに改めて感謝を申し上げ、挨拶とさせていただく。